

下関のこと・未来のこと

みんなで はなそう さくせん 会議。 hanasaku kaigi 2015

9.13_{SUN} 開講

開講 13:00スタート
場所 海峡メッセ下関 (アリーナ4イベントホール会場)

1部「はなさく会議」

時間 ▶ 14:00~16:00

「下関市人口ビジョンと下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」現在のこと・未来のことを、市民のみんなで意見交換。(120分)



コメンテーター **中尾 友昭氏**
下関市長

「下関市の人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略について」(40分) ※下関市による概要説明



市民の意見交換 (60分)



1部「はなさくフォーラム」

時間 ▶ 13:00~

「地方から創生する我が国の未来」
国の人口減少問題と地方創生の重要性を
みんなで学ぶフォーラム(50分)



講師 **石破 茂氏**
地方創生担当大臣

2部「はなさくカフェ」

時間 ▶ 16:30~18:00

下関市外出身の若い起業家が若い世代に対し、下関の良さ、下関市での可能性を伝え、みんなで語る。ちょっとまったりカフェでもしながら…(90分)



講師 **平井 宏和氏**
ritaya design office
代表取締役

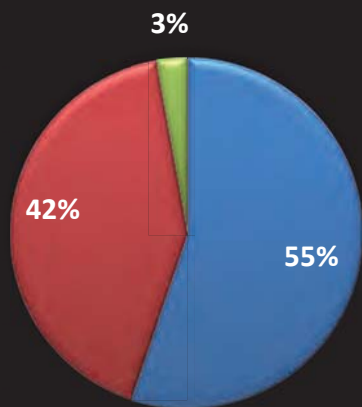
講師 **堀 茂氏**
グローバルロジクス株式会社
代表取締役社長

グループディスカッション

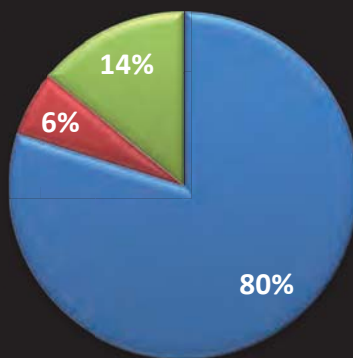


事業にご参加いただいた皆様にご記入いただいた「はなさくアンケート。」
まとめは次のページから。

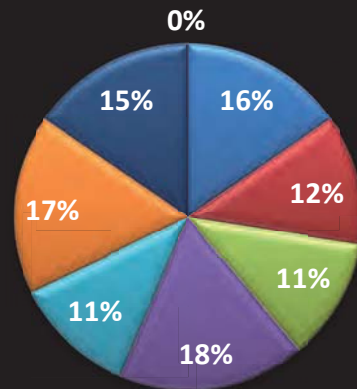
「はなさくアンケート」にお答えいただいた方（149名）の性別、お住まい、年齢。



■ 男
■ 女
■ 無回答

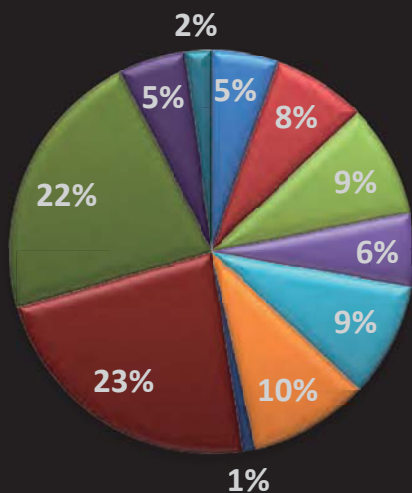


■ 下関市内
■ 下関市外
■ 無回答



■ 20歳未満 ■ 40歳代 ■ 70歳以上
■ 20歳代 ■ 50歳代 ■ 無回答
■ 30歳代 ■ 60歳代

Q1. 何がきっかけで本事業に出席しようと思われましたか？（複数可）



■ 下関青年会議所HP
■ フェイスブック
■ リーフレット
■ ポスター
■ 新聞記事
■ 地方情報誌
■ テレビ・ラジオ
■ JC会員から誘われて
■ 知人から誘われて
■ その他
■ 無回答

今回「はなさく会議。2015」の広報についてはポスターやリーフレットの配布、ホームページ、フェイスブックページでの情報発信、また多くの企業にもご協力をいただき新聞記事や、地方情報誌、TVやラジオなどでも取り上げていただきました。この度、様々な手法を取り入れましたが、出席いただいた方の約45%の方が「知人」「JC会員」から誘われて出席されたとの回答でした。

Q2. 今回「はなさく会議。2015」のどの企画にご出席いただきましたか？

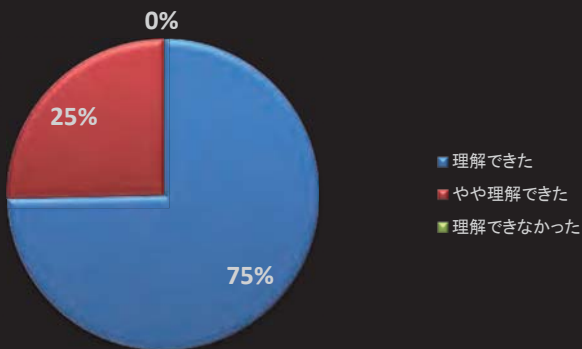
1部	1部参加
【1部】S1席 (はなさく会議参加) 小学4年生～22歳	19
【1部】S2席 (はなさく会議参加) 23歳～35歳	13
【1部】S3席 (はなさく会議参加) 36歳～48歳	25
【1部】S4席 (はなさく会議参加) 49歳～61歳	24
【1部】S5席 (はなさく会議参加) 62歳以上	38
【1部】S6席・S7席 (はなさく会議参加) ファミリー席	46
【1部】A席 (1部観覧) 1階席	44
【1部】B席 (はなさくフォーラム限定観覧) 2階席	45
【1部】来賓・プレス席等	20
合計	274

2部	2部参加
【2部】A1席 (はなさくカフェ参加) 高校生～26歳	18
【2部】A2席 (はなさくカフェ参加) 26歳～39歳	4
【2部】B席 (1Fはなさくカフェ観覧席) 40歳以上	22
合計	44

当日事業参加者合計	参加
1部一般	274
2部一般	44
運営関係者	104
合計	422

Q3. 【はなさくフォーラム参加の方】

講演で人口減少問題と地方創生の重要性について、ご理解いただけましたか？

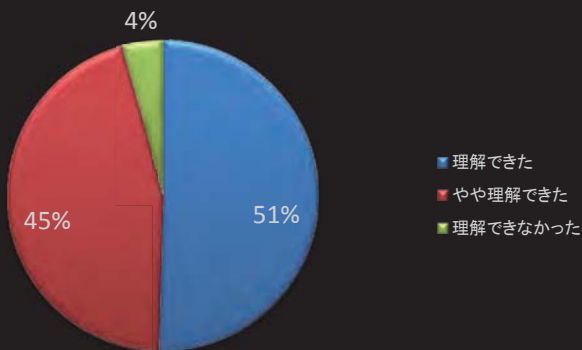


【ご意見】

- ・とても良かった。行政まかせではなく参加型の政策の重要性を実感した（30代女性）
- ・第一線で活躍する国会議員の話を聞くことができる貴重な経験となった。失敗は許されないが、先が真つ暗なわけでもなく、考え次第で地方を盛り上げていくことができるということが分かった。（20代男性）
- ・下関について初めて知ることが多く、勉強になった。市民が自分たちの住んでいる街についてもっと知らない！と思った（10代女性）

はなさくフォーラムの大臣講演にてアンケートにお答えいただいた方の100%が「理解できた」もしくは「やや理解できた」の回答となりました。石破大臣におかれましては、わかりやすく素晴らしいご講演を本当にありがとうございました。

Q4. 【はなさく会議参加の方】「下関市人口ビジョン」について、ご理解いただけましたか？



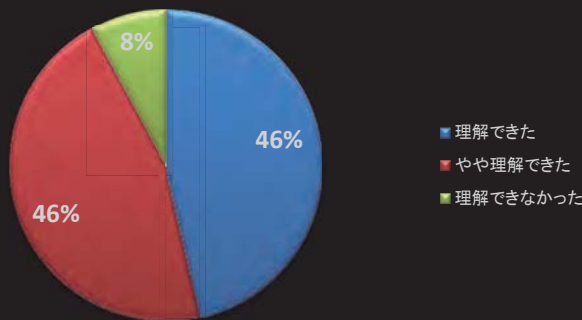
【ご意見】

- ・若者、女性の働く場を作してほしい。（50代女性）
- ・危機感を持った（30代男性）
- ・具体的になるのはこれからだと思うので知りたい（30代男性）
- ・現況の危機が、いまいち伝わらない（40代男性）

下関市の人口推計について「これから25年後の下関市の人口は20万人を切っていく」と言われ、直ぐに対策をしたとしてもその影響がでてくるまでには長い時間がかかる。この現状をアンケートにお答えいただいた方の約96%の方が「理解できた」もしくは「やや理解できた」の回答となりました。

Q5. 【はなさく会議参加の方】

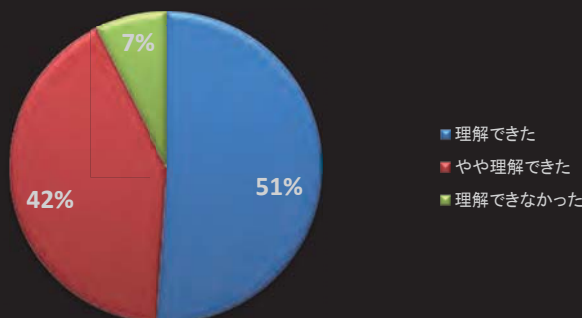
「下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、ご理解いただけましたか？



【ご意見】

- ・初めて耳にした。HPとかも見たことがないので、これを機に見てみようと思った。（20代女性）
 - ・良い考えだとは思うが、やはりどの市町村も考えそうなことなので、悪く言えば普通ではないかと思った。もっと下関のオリジナリティを強めることが大事だと思った（20代男性）
 - ・漠然としている。インバウンドを考えていない。中小企業向けの政策の具体性がない。大企業の誘致、雇用拡大政策の転換（30代女性）
 - ・多くの市民（中学生以上）に知っていただいて、多くの意見を求めてほしい（60代男性）
- 「下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての説明の時間が限られて為概要のみの説明となりましたが、アンケートにお答えいただいた方の約92%が「理解できた」もしくは「やや理解できた」の回答となりました。

Q6. 【はなさくカフェ参加の方】 下関の可能性について、ご理解いただけましたか？

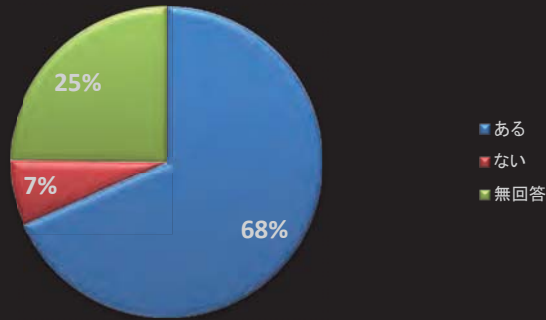


【ご意見】

- ・自分も考えていこうと思いました（10代男性）
- ・たぶん若い世代自身が下関の魅力を理解できていないと思うので、可能性を発信出来ていないと思う（20代男性）
- ・市民一人一人がものを言いやすいようにアンケートを募ってください。（70代女性）
- ・得意分野をどう形にするかが問題。（60代男性）

「はなさくカフェ」ではお二人の講師に下関の可能性についてお話いただきました。身近で具体的な起業のお話など、わかりやすい内容だったとの声が多くありました。アンケートにお答えいただいた方の約93%が「理解できた」もしくは「やや理解できた」の回答となりました。

Q7. あなたが暮らす“わがまち”の為に、自らができるとは思いますか？



石破大臣の講演の中で下関市や山口県の様々な魅力についてや「お任せ民主主義」からの脱却の重要性についてのお話もあり、中尾市長からも今現在下関市が進めている住民自治制度や官民一体となったシティープロモーションのお話もありました。アンケートにお答えいただいた方の約68%が「ある」の回答となり、多くの方が自らができると考えていることがわかりました。また、「具体的には何ができますか？」との問いに対しての様々な意見をいただきました。

【9歳～19歳 男性】

- ・SNS等で魅力を発信すること
- ・仕事や部活などでいい成績を残す
- ・市の政策に協力すること
- ・まずは、市民ひとりとして責任を果たすこと
- ・その他（学校）
- ・NPO法人ふるさと下関応援団を通じて、下関の活性化に取り組んでいます（市外に対して情報発信）
- ・ごみを捨てない

【9歳～19歳 女性】

- ・笑うこと
- ・困っている人を助けるとか
- ・意見ボックス
- ・ボランティア活動に参加
- ・高校生なので、一人で大きなことはできませんが、SNSで発信したり、何人かで集まりイベントの手伝い
- ・SNSで情報を発信する

- ・ごみ拾い
- ・地域活動への参加
- ・若い世代を盛り上げる
- ・グループを作る

【20代 男性】

- ・まちの事を知る。地元で買い物をする
- ・様々な公聴会等を通して意見する。
- ・豊前田町のために、人材確保・育成
- ・自分の店を持っているので、人材の確保
- ・仕事を頑張ること
- ・こういったイベントへの参加、知ることへの重要性の認識
- ・自らの街の魅力を発信する
- ・高齢者とコミュニケーションをとる
- ・まずは「わが街」に興味関心を持ち、日頃から考えること、市や政治が作った政策等に意見を述べるだけではなく、政策づくりに参加する姿勢が大切だと感じた

【20代 女性】

- ・まずはもっと知る
- ・家族を作る

【30代 男性】

- ・今日のことを地元で広める
- ・問題意識を持ち提案する、実行する
- ・地域の魅力を知り共有する

【30代 女性】

- ・地産地消に協力したりすること
- ・これからの課題です

【40代 男性】

- ・ひとりひとりが考え意見すること
- ・会社の繁栄による雇用の創出
- ・子作りによる人口増加
- ・仲間との運動展開
- ・自然その恵みも含めて、守りつつ、コーディネートして発信して活性化に寄与する
- ・地域経済発展への貢献
- ・自治会活動
- ・下関の魅力を内外に発信
- ・参加することに意義がある
- ・行動を起こすこと
- ・下関の魅力を伝えていく
- ・市民（商売をしている人）を集め、市に声を届ける
- ・本当に下関の未来を考えている人をリーダーにしていく
- ・まちのごみのポイ捨てをなくす
- ・まちの中にごみが置かれてなく、きれいなまちづくり

【40代 女性】

- ・小さな子供がいるので、子どもを通じ、自治会など地域活動に参加したい
- ・まず身近なところから
- ・県外の友人知人に下関の魅力もアピール
- ・今の職をしっかりとやる
- ・人材育成

【50代 男性】

- ・市独自の一端を担う
- ・政策提案
- ・夏祭り
- ・地域のふれあい事業の開催
- ・今は仕事として
- ・下関の魅力をアピールすること
- ・田舎の維持

【50代 女性】

- ・まちづくり協議会への参加（住民自治）
- ・まちづくり（防災）
- ・そこに暮らす選択自体
- ・高齢者ボランティア活動
- ・映画文化を広める

【60代 男性】

- ・人材育成
- ・企業誘致拡大
- ・外資動員
- ・自治会参画
- ・親切運動
- ・雇用
- ・道の清掃
- ・経済成長や近代化によって失われたものを取り戻す、維持すること
- ・下関市民
- ・その他（10年、20年先の街を自ら主体的に考え、下関で育つ若者がチャレンジできる街
- ・山口新鮮食品の海外輸出（国際フェリーをつかう）
- ・水産業をイスラム国（特にインドネシア）へ移植、今絶好のチャンス
- ・参加型催しに参加する・協力する・意見を言う

【60代 女性】

- ・子どもに期待する
- ・子育てに関しての大きな世話（よその子に関して）
- ・アピールすること
- ・町おこし

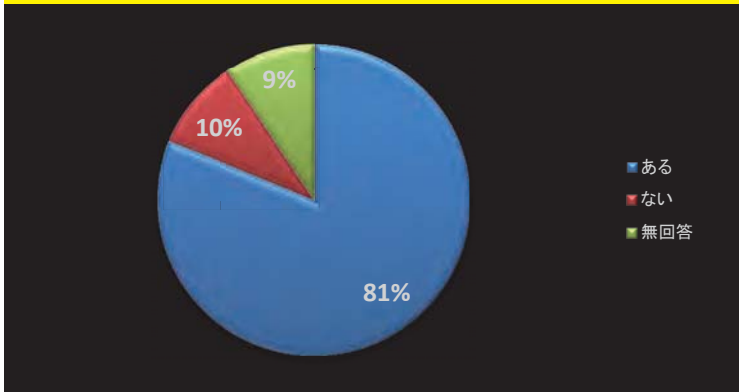
【70歳以上 男性】

- ・興味があるようにさせる
- ・地元自治会の手伝い
- ・地元伝統文化の手伝い

【70歳以上 女性】

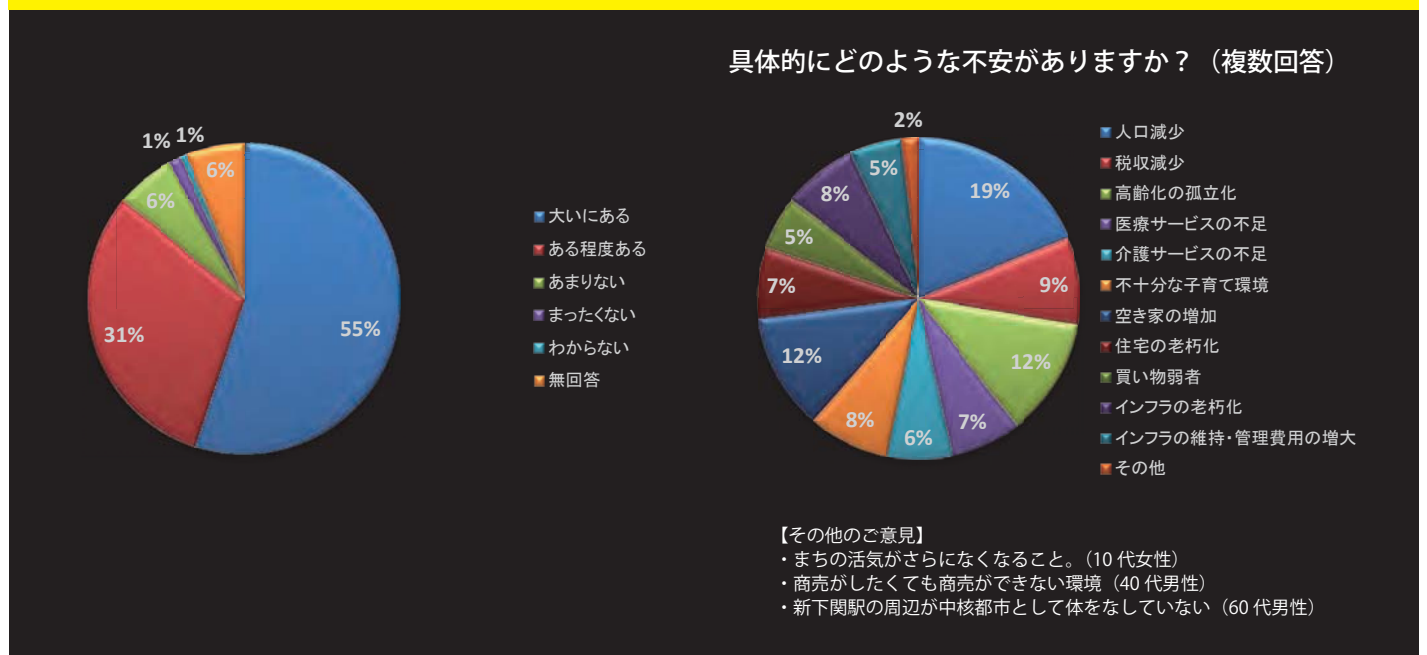
- ・交通機関が悪い。新幹線の下関ー東京直行なし。宇都空港までのバスの運賃が高い。
- ・住民の人に声掛けします。健康長寿のために努力します。
- ・近所の空き家等の聞き取り。例えば、民生委員などをお願いする。
- ・情報を互いに持ち合う
- ・経験を活かし社会の仕掛人として

Q 8. あなたは下関市またはお住まいのまちの様々な取り組み（市政）について興味がありますか？

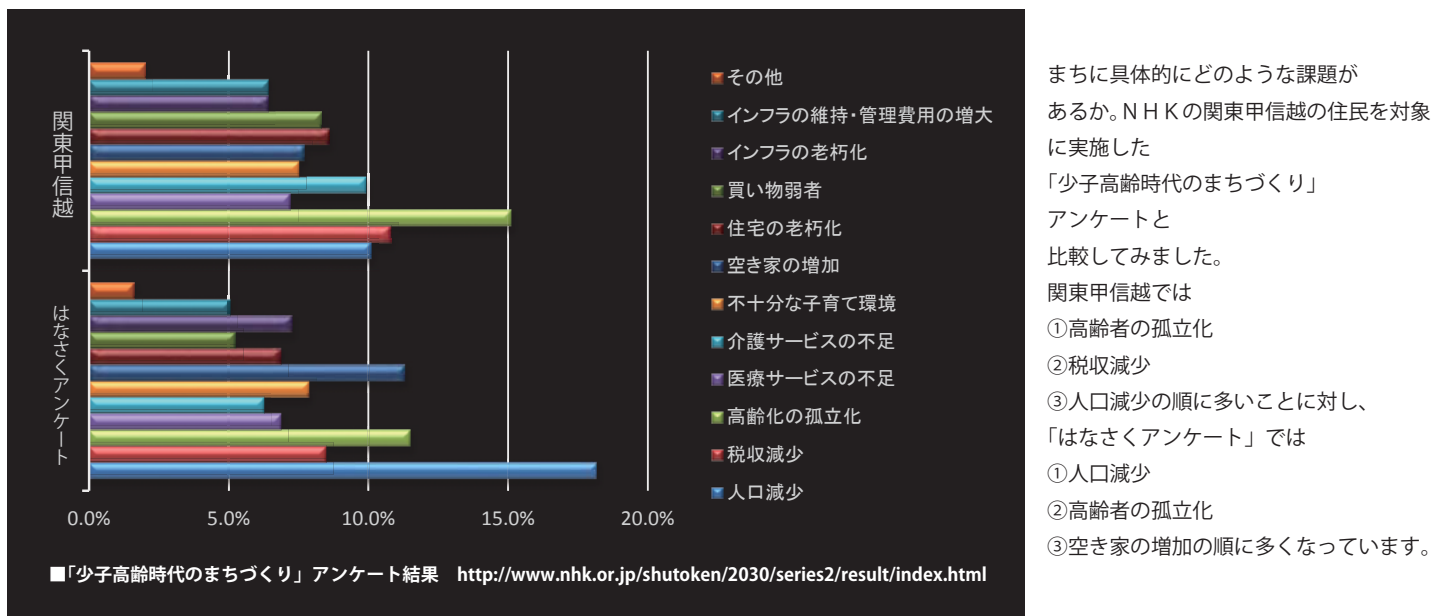


アンケートにお答えいただいた方の約81%の方がまちの様々な取り組み（市政）について興味があるとの回答でした。

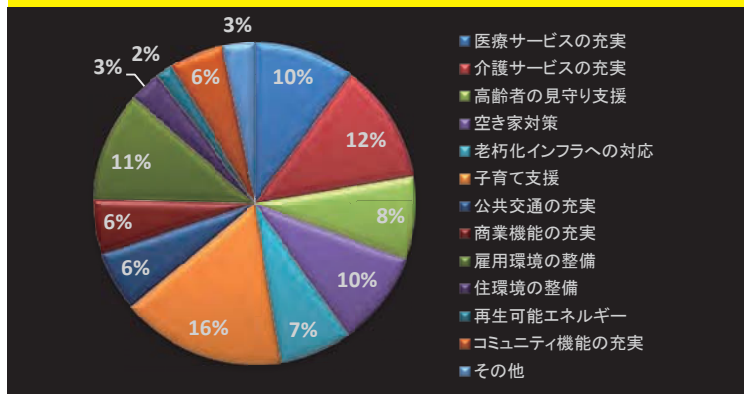
Q 9. 少子高齢化が進む中で、まちの将来に不安はありますか？



NHKプロジェクト2030「少子高齢時代のまちづくり」アンケート（関東甲信越の住民アンケート）との比較



Q10. 少子高齢化が進む中で、どのような点を重視して「まちづくり」を進めてほしいですか？

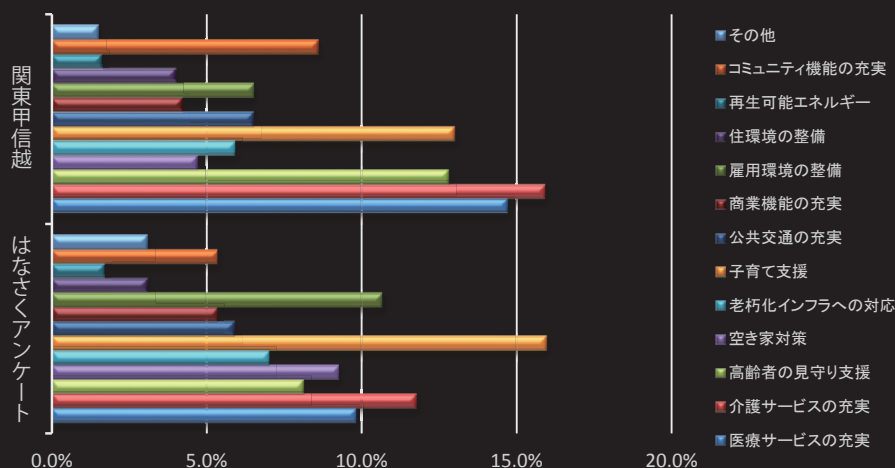


【その他のご意見】

- ・高齢者にできること（ボランティア）の拡大（10代男性）
- ・空き店舗対策・下関北部にもっと値段の安いスーパーが欲しい（20代男性）
- ・中小企業の発展、継続性（30代女性）
- ・商売繁盛/チェーン店ではなく、個人店への応援（40代男性）
- ・市民が市内の大学へ進む場合の補助（40代女性）
- ・支所機能を制約したらどうか（50代男性）
- ・医療内容の充実。大きな病院が4つあっても内容が全くよくない。
- ・新幹線をもっと利用しやすく。（50代女性）
- ・少子高齢化が何を意味しているのか、経済成長面からのみからでなし、裏からも見つけなおして考えてほしい（60代男性）
- ・効果的なシステムの構築（60代男性）
- ・子供は国の宝です。国策で育てることです。（60代男性）
- ・歴史・文化の外部への発信（60代男性）
- ・企業誘致、税を絡めた取り組み（60代男性）
- ・観光を主に。交通（70代女性）

上位5項目は ①子育て支援16% ②介護サービス充実12% ③雇用環境の確保11% ④空き家対策10% ⑤医療サービスの充実10%

NHKプロジェクト2030「少子高齢時代のまちづくり」アンケート（関東甲信越の住民アンケート）との比較



■NHK「少子高齢時代のまちづくり」アンケート結果 <http://www.nhk.or.jp/shutoken/2030/series2/result/index.html>

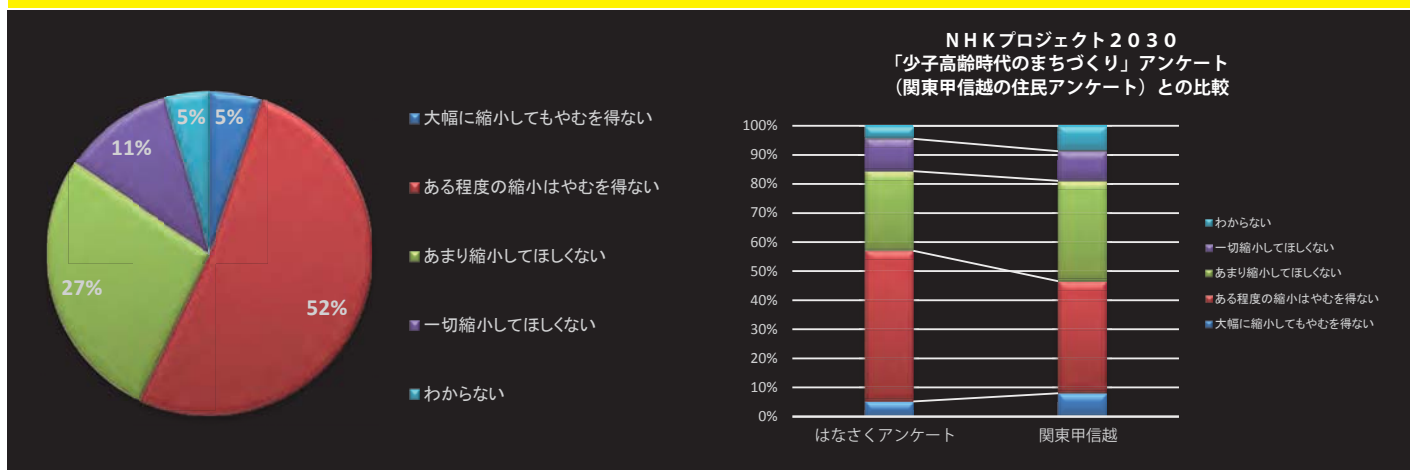
具体的にどのような点を重視したまちづくりを進めてほしいか。

NHKの関東甲信越の住民を対象に実施した「少子高齢時代のまちづくり」アンケートと比較してみました。

関東甲信越では ①介護サービス充実 ②医療サービスの充実 ③子育て支援 の順に多いことに対し、

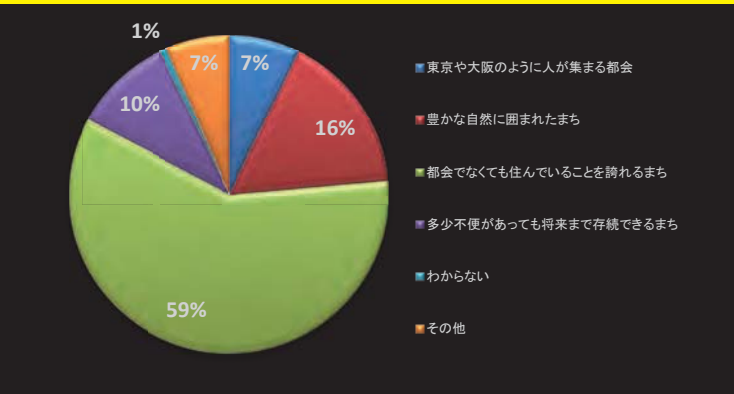
「はなさくアンケート」では ①子育て支援 ②介護サービス充実 ③雇用環境の整備 の順に多い結果となりました。

Q11. 少子高齢化が進む中で、行政サービスが縮小するのは、やむを得ないと思いますか？



はなさくアンケートでは「行政サービスの縮小はやむを得ない」と答えた方は6割近く、「縮小してほしくない」と答えた住民も約3割となりました。それに対し関東甲信越では「行政サービスの縮小はやむを得ない」と答えた住民は4割以上、同時に「縮小してほしくない」と答えた住民も4割以上にのぼりました。下関では人口減少、高齢化問題に対する危機感が関東甲信越に比べると高いと言えるかもしれません。

Q12. 少子高齢化が進む中で、今後、どのような町・街にしていくことが大切だと考えていますか？



【その他のご意見】

- ・遊ぶ場所が増えてほしい (10代女性)
- ・不便なことがない自然に囲まれたまち (20代男性)
- ・福岡市のようなコンパクトシティ (40代男性)
- ・豊かな自然に囲まれた街をコーディネートして、いいデザインで発信するか、調整機能のある町にすること (40代男性)
- ・歴史文化食の街、観光客を大切に (40代男性)
- ・観光や産業で、力をつけ、交流人口を増やし外貨を稼げる街。
- ・住民でなくも別荘として通ってもらい、消費活動をしてもらえる街 (40代女性)
- ・防災に強い街。老人に優しまち。「第2の人生は下関で」をキャッチフレーズでよいと思う。華が必要な若いころもあるが、年を取ると人とのつながりのほうが大切。毎日選ぶ訳ではないが、毎日顔を出したら、自分を知ってしてくれる人が居るお店が続けていける街のほうが良い。他市ではアーケード街も続けられている。自治会、スポーツ、文化、どれも世話人は高齢者。高齢化を嘆くのではなく、高齢者で活気を取り戻せる下関にする方法があると思います。(50代女性)
- ・コンパクトで便利な街、事業やサービス等がある程度集約された仕組み
- ・60代、20代の人々に、結婚・子育てにこんなことが出来る
- ・10年、20年先の街を自ら主体的に考え、下関で育つ若者がチャレンジできる街 (60代男性)
- ・意識の変化大になり、若い人が強い力でやり続けていたきたい。古民家や空き家に住む場合は、Uターン、Iターン、家賃、修理、入る方への特典のようなものを提案する。老人と子供と一緒に遊ぶ。おしゃべりするような場所があったらよいと思う。(70歳以上女性)

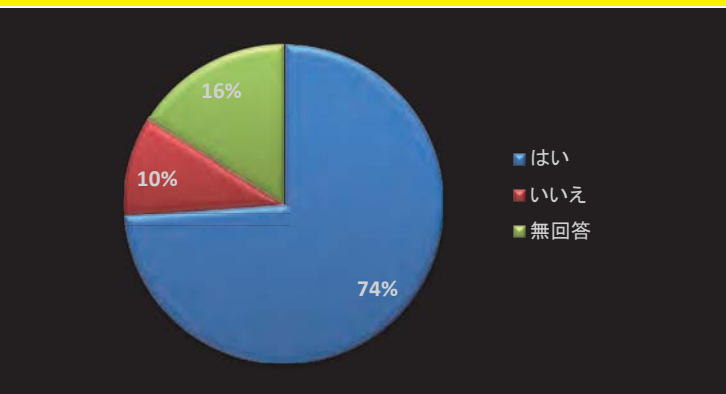
上位3項目は

- ①都会でなくても住んでいることを誇れるまち 59%
- ②豊かな自然に囲まれたまち 16%
- ③多少不便であっても将来まで存続できるまち 10%

との回答となりました。

今と全く違うまちにしていくのではなく、今のまちの良さをさらに引き出し、より良いまちにしていくことを多くの方が大切だと考えているようです。

Q13. この「はなさく会議。2015」に参加することで意識の変化はありましたか？



「本事業に参加することで意識の変化はありましたか」との問いにアンケートにお答えいただいた方の約74%の方が「意識の変化があった」との回答をいただきました。

まちの問題は誰かが解決してくれるものではなく、そこに住まう人々が行動することで解決していくもの。

本事業が明るい豊かなまちへのきっかけとなることを祈念しております。

「はなさく。アンケート」の集計結果より

この度「みんなで話そう作戦会議。2015」のご参加いただいた方にアンケートを行い、事業参加者の約半数の149人から回答を頂きました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

事業に関するアンケート結果(Q1～Q6)から、参加いただいた多くの皆様に内容をほぼご理解していただけたとの回答をいただきました。またはなさく会議の「下関市人口ビジョン」や「下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については時間の関係上、大まかな内容しかお伝えできませんでしたが、多くの方が興味を持ったのではないのでしょうか？本事業をきっかけに下関市ホームページで調べるなどしていただけると、よりまちの事を知ることができます。是非とも一度アクションを起こしてみてください。

また事業の運営に関しては特に「いい事業なのに参加者が少なくもったいない」との声が最も多くありました。事業の広報に関しましては、ポスターやリーフレットの配布、ホームページ、フェイスブックページでの情報発信、また多くの企業の皆様にもご協力をいただき新聞記事や、地方情報誌、TVやラジオなどでも取り上げていただくなど、様々な手法を取り入れましたが、出席いただいた方の約45%の方が「知人」「JＣ会員」から誘われて出席されたとの回答となりました。近年のまちづくり系の青年会議所事業の一般参加者は100名前後であることを考慮すると多い参加者ではありますが、まちの問題に対して多くの方に知っていただくための「1000名」という目標には程遠い結果となりました。まだまだPR不足であったと感じています。

まちづくりに関するアンケート結果(Q7～Q12)から見てきたのは、少子高齢化の影響や「まちづくり」の現状について、多くの方が問題意識や様々な不安を持っていることです。そして多くの方が市政に興味を持ち、自らができると考え、様々な意見をお持ちであるということです。これから急速に少子高齢化社会において、「都会でなくても住んでいることを誇りに誇れる、次世代に引き継ぎたい」まちをつくるためには、この「はなさく会議」のような企画を通じて市民意識を高め、下関市の進める住民自治の仕組み、そして官民一体となって行うシティプロモーションなどに積極的に参加することが必要ではないでしょうか。市民と下関市行政が、問題意識を共有し、行動していくことがまちの様々な問題解決の第一歩であると考えます。

これからも下関青年会議所はまちの為に「まちづくり」・「ひとづくり事業」を実施して参りますので、多くの市民の皆様のご支援、ご協力、また積極的なご参加をどうぞよろしくお願い致します。

最後に、「はなさく会議」の実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に心からの感謝の意を表しますとともに、「はなさく会議」が皆様の今後の活動、そしてまちの未来にとって有意義なものとなりますことを祈念いたします。

Q14. 「はなさく会議。2015」の感想、印象に残ったことをお願い致します。

【9歳～19歳 男性】

- ・埋もれている魅力を発信することが下関、山口の今後の課題である
- ・新しい発見があったがディスカッションの時間が短い
- ・今まで考えてなかったことを考えることで下関のいいところわるいところを知ることが出来た
- ・大臣の話聞いたのは良かった
- ・石破さんありがとうございました。
- ・下関について様々な年代層が考えを持っていることが分かった
- ・下関のいろんなことが分かった
- ・まちづくりに対して考えるようになった

【9歳～19歳 女性】

- ・石破茂さんの話が楽しかった
- ・下関のことについてよくわかった
- ・色々な人と話が出来て良かった
- ・色々な人の意見を聞いて、地域のことを考えるいいきっかけになりました。
- ・自分で考え、色々な意見を聞け、いいきっかけになりました。
- ・下関の名所を広めていきたいと思いました。
- ・下関のことを考えさせられる90分でした。
- ・会議なのに運営がなくてなく、グループになっておらず、残念な感じだった
- ・やはり時間の関係といって、全世代に考えを聞かないということはいけないと思いました。
- ・でも、このイベントは良かったのでまた参加したいです

【20代 男性】

- ・石破大臣の人口推移について。30年先は考えたことはありましたが、1000年先までを見通して日本を考えたことはありませんでした。子供を増やす対策を考えたいです。
- ・石破大臣のお話は良い勉強になった
- ・石破大臣の地方創生のビジョンに関する演説
- ・豊前田には力を入れてない。どうにかして下さい
- ・私の店には北九州から来ていて、下関にアパートを借りた、人がいます。北九州から流れてくるには、店が大切です。店が作りたくなるような街づくりを
- ・最後の発表の会議がとても良かったです。
- ・このイベントへの参加人数の少なさがそのまま下関市の活気や市政への意識の高い低いに直結していると思った
- ・この会議に参加して、自分の地元についても、もっと考えようと思いました
- ・参加することで意識を保つことが出来たし、同じような意識を持つ方々の多様な意見を聞くことができて参考になった。せつかくの無料イベントなので、もっと多くの市民が参加することが出来ればよかったと思う。機会を設けて頂きありがとうございました。

【20代 女性】

- ・大臣の講演や市長の話など、とても有意義な時間になった。ありがとうございました。

【30代 男性】

- ・大臣、市長の話が聞けてよかった
- ・10代の皆さんがきちんとした考えを持っていたこと
- ・参加者が少なすぎました。内容の充実は力が入っていたが人を集めないと意味がない。広告、呼びかけにもっと力を入れるべき

【30代 女性】

- ・すごく意義があるイベントなのに人が少なすぎてもったいなさすぎる
- ・なかなか聞くことのできない大臣の話や、色々考えるきっかけになりました
- ・観光資源等豊富にあるのに生かし切れていない点
- ・市長の話は「した」「決まった」ことばかり、将来ビジョンに対する考え夢がない、HP・市報を見ないのは魅力がないから

【40代 男性】

- ・継続実施
- ・一人でも多くの人に伝え、一緒に考えること
- ・有志の市民による検討
- ・人口減少（女性の減少）などなぜ情報発信が出来ていないのかなど等、各課題に対し原因分析を深くする。
また、全市民へのアンケートを具体的に検討
- ・コンパクトでも広い世代の人を集めて本日のような会議がしたい
- ・皆様お疲れ様でした
- ・思ったよりは、この町を愛する人が多いが、参加者が少ないのはさみしかった
- ・参加人数が少ない
- ・なんでも市に要望するのではなく、自分たちでできることは自分たちで行うことが大切
- ・大変素晴らしく、とても重要な事を行ってくれた
- ・企業誘致するなら大きな投資を
- ・人口面では、福岡にかなわないので、ターゲット（年齢）を絞って、増加を考える
- ・歴史は思っているより魅力がない
- ・すごくいいことだと思う。ただ人が少なすぎる。
- ・市長はどういう下関にしたいのかはっきり言ってほしい
- ・市役所の人がいなのがさみしすぎる
- ・また次回足を運んでみたいです。

【40代 女性】

- ・会議の内容は素晴らしかったが、空席が多くもったいないと思った
- ・参加者が少なすぎ
- ・市内全体をもっと巻き込んで、下関を活性化しないといけない
- ・石破大臣の講演、これからの地域創生の意味
- ・竹下登さんの言葉「ただ1億ばらまいただけではない。その地域と知恵が分かる政策」
- ・もっと今日の宣伝をして、多くの市民を参加してほしい

【50代 男性】

- ・大変勉強になりました
- ・人口減少＝税収減少＝行政統治機構の制約
- ・いい取り組みです。
- ・参加者確保が必要です。
- ・継続することが大事
- ・将来に対し、問題意識とまちづくりに期待
- ・たくさんの魅力がある中、それがアピールできていない

【50代 女性】

- ・何かしたい、しなくてはいけないと考えている人はいるのだから、まとめる人からの発信を見逃さないようにしたいと思います。
- ・現在あるものをいかに活用するかを考えると良い。
- ・参加者が少なかったのが残念。市内の大学生など若い世代に聴講参加して欲しい。
- ・参加者が少なく石破大臣に対し申し訳なく、そして恥ずかしいと思いました。JCを活かそう。
下関は子育てのしやすい街です。しかし、大学は県外にでます。その子たちが、帰ってこようとしません。なぜでしょうか？
他県からくる友人をもてなすのに困ります。これといったものがないのです。
自分が他県へ行ったときどこから来たのと聞かれ、下関というと、「あー北九州ね、もしくは福岡の端？」と言われる。
観光がバラバラです。道路がつながらなくて、走りにくい。道案内がしにくい。下関の魅力って何でしょうね。
私は54年住んでますがわかりません。今回のこともですが、下関でもようされてることが市民に平等に伝わっていない。
面白味が伝わっていない。知らせ方に問題あり。ホームページに頼りすぎ。
市が頑張っているだろうことが、市民に伝わっていない。本気が見えない。

【60代 男性】

- ・久しぶりにJ.Cの事業に参加しました。興味深い内容と思いましたが、動員が少なすぎる（本気度が少ないと思わざるを得ない）
性根を入れて、取り組んで欲しかった
- ・どちらかと言えば表面をなでるような内容であった
- ・下関のあらゆる資源を活用するために、どうしたらよいか深耕必要
- ・まず人間が下関へ来ること、その後住むことを考えてもらう
- ・本日はとても良い企画でした
- ・下関は一般市民が創り上げるべきだ
- ・良かったです
- ・日本国、その地方・地域をよく観察されている石破大臣のお話（日本の四季、農、林、水産、伝統的文化→ブランド
- ・石破大臣、中尾市長の講演は大変参考になりました。
- ・何の心配もなく、年を重ねてきて、これからのことを思う時、恐ろしくなった
- ・下関は、発信力がないと常々感じていました
- ・もっと、モノを言おう・広く意見を聞こう
- ・若い人がこういう場にもっと出やすいように企画してほしい
- ・息子は大学も仕事も関東なので自然の多い地方へ帰ってきてほしい
- ・もっとたくさんの人が帰ってきてほしい

【60代 女性】

- ・将来の不安に対して色々対策を考えて頂いて心強く思いました。
- ・行政市民一体化となって。市民の声を伝えるツールは？
- ・一人でも多くの市民が街の再生に本気で関わってほしい。

【70歳以上 男性】

- ・北回りの基地として、下関を見ることは誤りである
- ・もはや貿易で下関港を考えるのは落とし穴である
- ・選挙が終われば、市議の役割は終わりなのか
- ・市議の全員が本会議に参加すべき
- ・市議のレベルアップ、その選別
- ・給与の多い人は除去する
- ・本事業においてもっと広報、宣伝が必要である
- ・集まりが少ないのがさみしかった
- ・市民力（民意・民度）が向上しない限りは、効果・成果は望めない

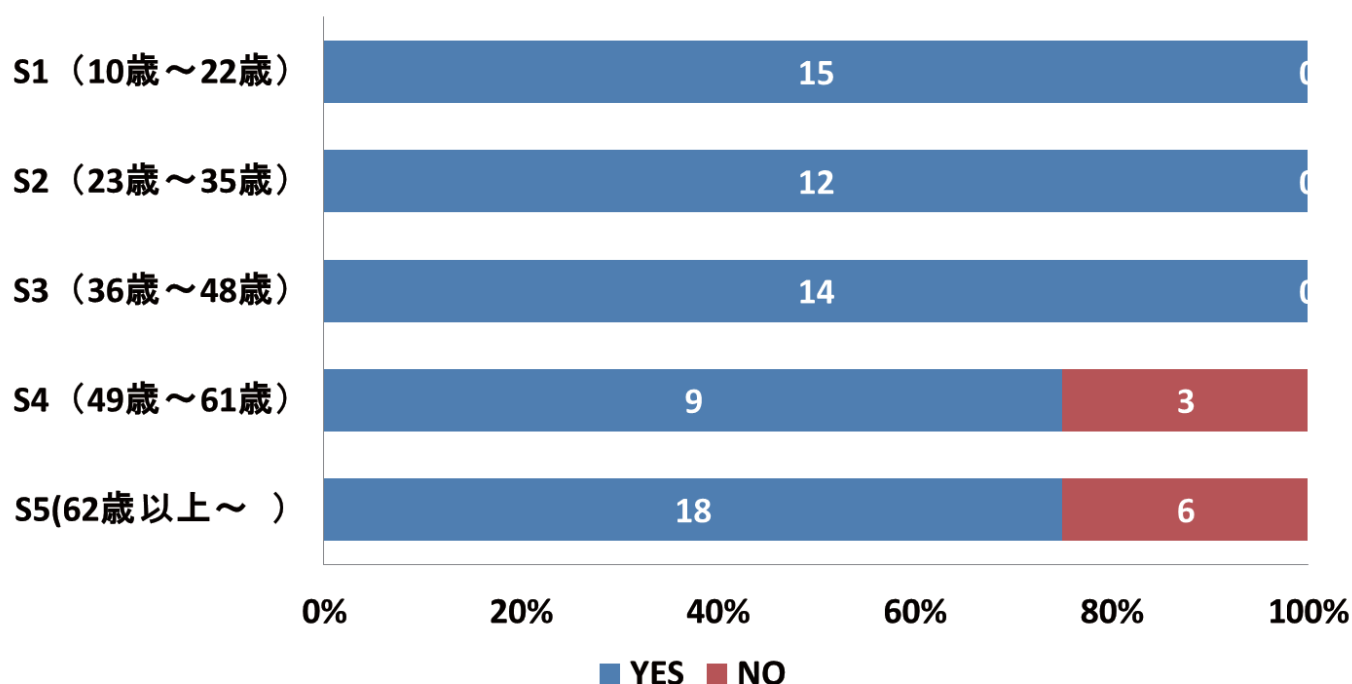
【70歳以上 女性】

- ・このような会合はたびたび開催していただきたい。
- ・参加者が少ないのが残念。暗い街ですけど好きです。
- ・市民を交えて、下関市について深く考える場になったことを高く評価します。
- ・企業大手の会社、小さいことであれば、空き家への利点等の情報を聞いてください。
- ・力強いアドバイス。もっと多くの方々に聞いていただきたかったです。
- ・参加者が少ない。
- ・参加者が少ないのがっかり。もう少しPRして、若者にもっと参加して欲しい。
- ・もっと宣伝し会議に参加増大を図る努力を

「はなさくアンケート。」へのご協力ありがとうございました。



Q1.『下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に賛同(良い)できますか？



【20代男性】

「企業という面で若者や中年層といった仕事をしている人への対策、子育て世代に対する対策はできていると思うが、高齢者に対する対策が出ていないと思いました。」

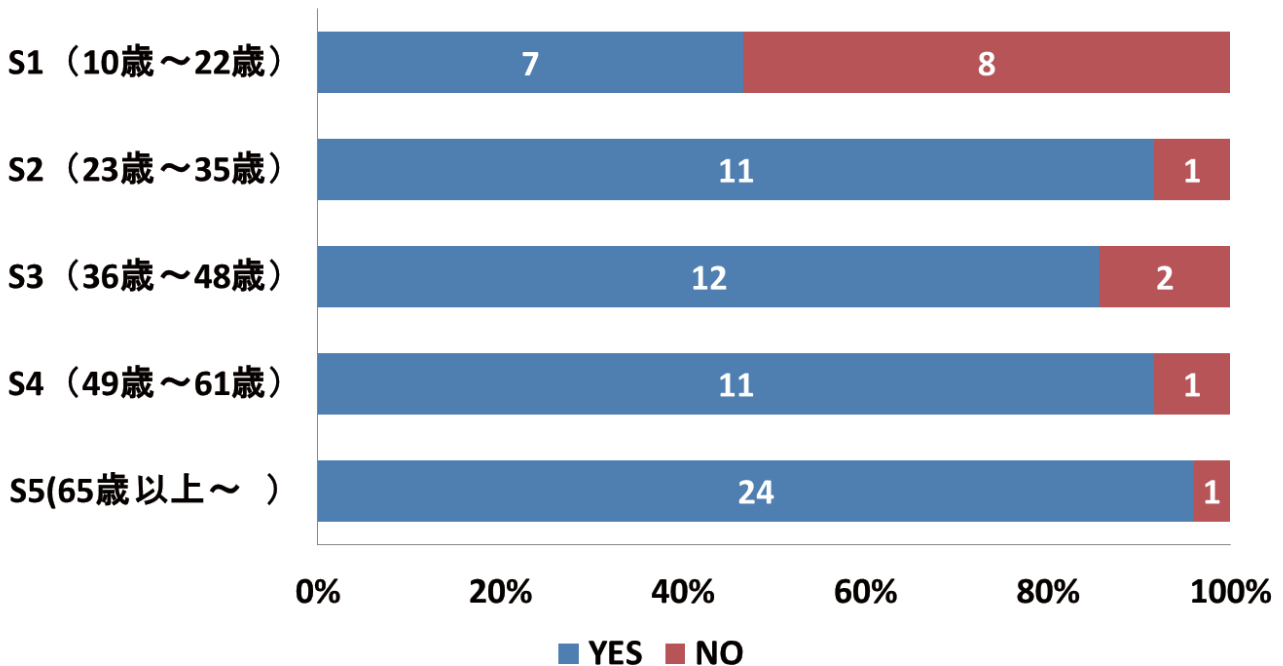
【60代女性】

「今日このような会議に参加させていただきとても勉強になりました。大臣のお話を聞かせていただき、下関の良いところもたくさん見えてきて、うれしい気持ちになりました。子供たちを育てていくのに地域がどれだけの力を添えていけるかが一番問題だと思います。旧市内はどんどん人口が減っていき、空き家や空き地がたくさんあります。そういったところを活用していただければと思います。」

【20代女性】

「今日は話を聞いて本当に良かったと思います。これまでは本日聞いた政策や対策はまったく聞いたことがなかったので、しっかり考えたいと思えるようになりました。一部の人たちだけでなく、私たち市民が子供から大人までみんなで考えていくことが大切なんだなと感じました。今後の取り組みを応援しております。」

Q2. 人口減少の現状を実感されていますか？



【30代女性】

「人口の減少は実感としてあります。今後減るといわれている出産が可能な女性のなかでも、子供を産む・生まないという選択肢が自由になってきている。女性のライフスタイルによっては経済的な理由から産まないという選択をしたり、人数を制限したりという方も身近にいるので、そのような理由で実感できます。」

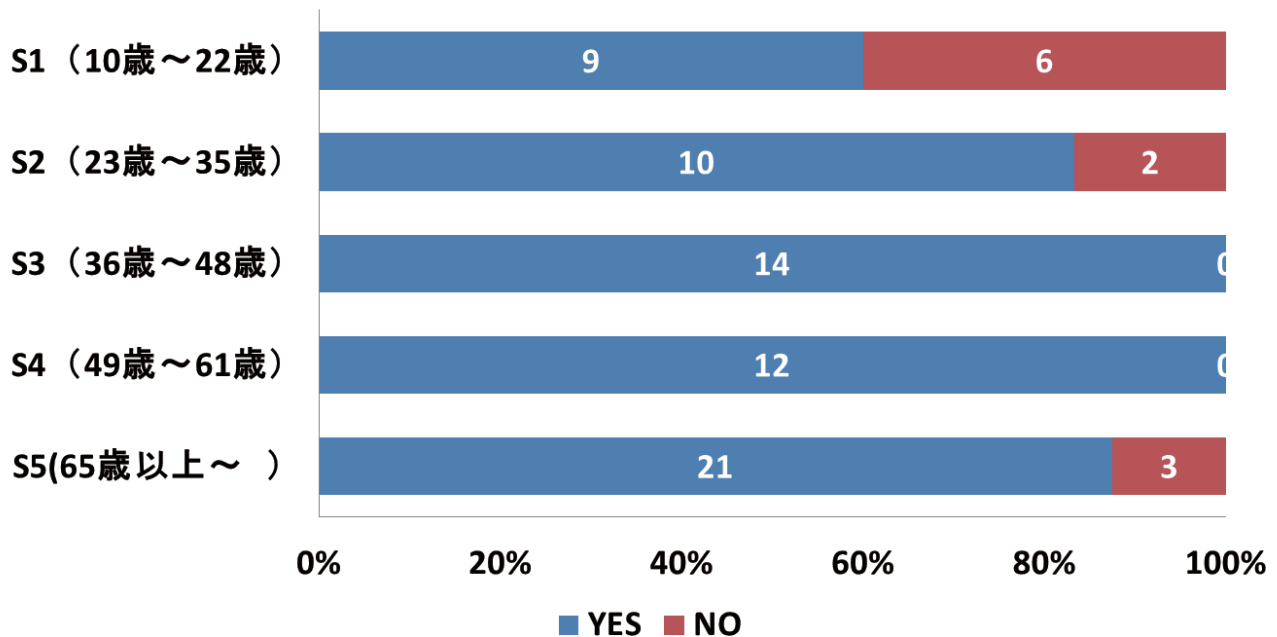
【50代男性】

「大臣・市長のお話を聞いてとても参考になりました。私は高校を卒業して地元を離れてましたが、地元に帰ってきて自営業をしています。下関市に住んでいる私たちが街にもっと魅力を感じ、自分たちが情報発信することで、もっと活気ある街に戻ることができるのではないかと思います。自分たち一人ひとりが街の魅力を実感することが下関の今後のまちづくりの為になると思いました。」

【60代男性】

「ここにきているほとんどの人が政策を知らない！というのが現実です。出てきていない人たちにどう知らせるか、市長自らが各地域で歩いて自分たちがこういうことをやっているということをアピールすることが必要だと思います。若い人たちがどうして下関に残らないのか、それはいい大学がないから。そして企業誘致！企業がないと誰も戻ってこない。どういうふうに企業誘致するのか具体的に見えない。ただ誘致誘致と言うだけで具体策が見えてこない。たとえば税制面での優遇等をし企業が進出しやすい環境を作ることが必要だと思う。」

Q3. 下関が好きですか？住み続けたいと思いますか？



【10代男性】

「下関は水産資源も豊富にあり、自然災害も少なく、比較的安定した土地ですので、住み続けたいと思います。」

【30代男性】

「今年の3月末に新潟から下関に帰ってきました。帰省するたびに下関に帰ってくると落ち着き、海がきれいですごく心がなごみます。仕事もこちらで決まったので、これから住み続けていくんだなという思いはあります。ただ下関は若者が残る街かと言われるればそうじゃないと思います。下関は華やかさが無い。それは結局今後市政と市民が一体となって考えていけるか疑問です。」

【40代男性】

「今日話を聞いてみなさんの活力・魅力をだしていくには地元の企業がしっかりと儲かっていないとダメだと思う。チェーン店ではなく、個人事業者がしっかりと儲かる街になる必要がある。滞在型の観光にも力を入れれば良いと思う。」

【60代男性】

「企業誘致だけでなく下関の魅力のひとつに自然というものがあるが、それらをコーディネートして街づくりを行えばよいと思う。」

【10代女性】

「下関は好きです。海響館もあるし学校帰りに行っています。他の街の魅力的な観光スポットが下関にもあればより良いと思います。」